



Kofax TotalAgility

テナント管理システム インストール ガイド

バージョン: 8.0.0

日付: 2024-03-13

TUNGSTEN
AUTOMATION
FORMERLY KOFAX

© 2024 Tungsten Automation. All rights reserved.

Tungsten and Tungsten Automation are trademarks of Tungsten Automation Corporation, registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Tungsten Automation.

目次

序文.....	4
TotalAgility ドキュメント.....	4
トレーニング.....	4
Kofax 製品のヘルプの入手.....	4
第 1 章：インストールの計画.....	6
システム要件.....	6
前提条件.....	6
第 2 章：TotalAgility テナント管理システムのインストール.....	8
テナント管理システムのサイレント インストール.....	8
テナント管理システムの標準インストール.....	10
個別のインストール.....	10
統合インストール.....	14
第 3 章：テナント管理システムの構成.....	16
TotalAgility テナント管理システムへのログオン.....	16
Web.config の暗号化と復号化.....	16
https 通信用の TotalAgility テナント管理システムの構成.....	17
クロス サイト リクエスト フォージェリ (CSRF) 対策.....	17
クロス サイト リクエスト フォージェリ (CSRF) 対策トークン.....	17
Cookie のホスト プレフィックスの有効化.....	18
第 4 章：TotalAgility テナント管理システムの起動.....	19
ライセンスのアクティブ化.....	19
第 5 章：TotalAgility テナント管理システムのアンインストール.....	20
サイレント モードを使用する場合.....	20
インストール ウィザードを使用する場合.....	20
第 6 章：テナント管理システムのアップグレード.....	21
スクリプトを使用したデータベースの手動アップグレード.....	21
第 7 章：トラブルシューティング.....	23
ソフトウェア更新プログラムのダウンロード.....	23
IPv4 および IPv6 環境でのインストールの失敗.....	23

序文

このガイドには、Kofax TotalAgility テナント管理のインストール手順が含まれています。
ソフトウェアを使用する前に、このガイドをしっかりと読んでください。

TotalAgility ドキュメント

[Kofax TotalAgility ドキュメント ページ](#)から、オンラインで完全なドキュメント セットにアクセスします。

また、Kofax フルフィルメント サイトから言語ごとに TotalAgility ドキュメントを個別にダウンロードすることで、オフライン モードで TotalAgility ドキュメントにアクセスすることもできます。

完全なドキュメント セットと、オフライン モードでドキュメントにアクセスする方法については、「Kofax TotalAgility 8.0.0 リリース ノート」を参照してください。

トレーニング

Kofax は、製品を最大限に活用するために役立つクラスルーム トレーニングおよびオンライン トレーニングを提供しています。トレーニング コースとスケジュールの詳細については、Kofax の Web サイトにある [Kofax Education Portal](#) (Kofax エデュケーション ポータル) にアクセスしてください。

Kofax 製品のヘルプの入手

[\[Kofax Knowledge Portal \(Kofax ナレッジ ポータル\)\]](#) リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Portal で情報を検索することをお勧めします。

[Kofax Knowledge Portal] にアクセスするには、<https://knowledge.kofax.com> にアクセスしてください。

 [Kofax Knowledge Portal] は Google Chrome、Mozilla Firefox、または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Portal] は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。
[Search (検索)] ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。
- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。
記事を見つけるには、Knowledge Portal のホームページにアクセスし、製品に該当するソリューション ファミリーを選択するか、[View All Products (すべての製品を表示)] ボタンをクリックします。

Knowledge Portal のホームページからは、次の操作を実行できます。

- Kofax Community (Kofax コミュニティ) へのアクセス (全カスタマー)。
[Resources (リソース)] メニューで、**[Community (コミュニティ)]** リンクをクリックします。
- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (一部のカスタマーのみ)。
[\[Support Portal Information \(サポート ポータルの情報\)\]](#) ページに移動し、**[Log in to the Customer Portal (カスタマー ポータルにログイン)]** をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (一部のパートナーのみ)。
[\[Support Portal Information\]](#) ページに移動し、**[Log in to the Partner Portal (パートナー ポータルにログイン)]** をクリックします。
- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。
[\[Support Details \(サポートの詳細\)\]](#) ページに移動し、適切な記事を選択します。

第1章

インストールの計画

この章では、Kofax TotalAgility テナント管理システムのシステム要件、前提条件、ライセンスの詳細、およびインストールと使用に関する推奨事項について説明します。

システム要件

製品ドキュメント ページ サイトの Kofax TotalAgility [技術仕様](#) ドキュメントを参照してください。

- サポートされているオペレーティング システムおよびその他のシステム要件について。
- ソリューションに複数の Kofax 製品が含まれている場合。

このドキュメントは定期的に更新されます。TotalAgility 製品を適切に使用するためには、このドキュメントを注意深くお読みください。

前提条件

- TotalAgility インストール ZIP ファイルを抽出する前に、ファイル プロパティ ウィンドウでファイルのブロックを解除します。
- TotalAgility をインストールする前に、前提条件ユーティリティを実行して、必要なすべてのソフトウェアはコンピュータにインストールされていることを確認してください。前提条件とさまざまなインストール タイプのソフトウェア チェックリストの詳細については、『Kofax TotalAgility 前提条件ガイド』を参照してください。
- TotalAgility をインストールするには管理者アカウントが必要です。
- TotalAgility を実行するユーザーには、「サービスとしてログオンする」権限が割り当てられている必要があります。
- オンプレミス マルチテナンシーでデータベース アクセスに Windows 認証を使用している場合、テナント管理システムのデータベース アカウント、つまり Windows アカウント ユーザーには次の権限が必要です。
 - **db_datareader**
 - **db_datawriter**
 - **実行権限**
- テナント データベースを作成するには、データベース作成者サーバー ロールが必要です。

i オンプレミス マルチテナンシーで DB アクセスに Windows 認証を使用している場合、テナント管理システムにテナント ログオン ユーザーは作成されません。

第2章

TotalAgility テナント管理システムのインストール

この章では、TotalAgility テナント管理の2つのインストール方法について説明します。

- コマンドラインパラメータを使用した[サイレントインストール](#)。
- 標準インストーラウィザードを使用した[標準インストール](#)。

テナント管理システムのサイレントインストール

TotalAgility テナント管理のサイレントインストールを使用して、コマンドラインまたはバッチファイルから TotalAgility テナント管理を自動的にインストールします。サイレントインストールファイルを編集した後、TotalAgility テナント管理のインストールはユーザーの操作なしで続行され、SSL は自動的に True に設定されます。

1. TotalAgility インストールファイルから、\TenantManagementInstall フォルダに移動し、テキストエディタを使用して SilentInstallConfig.xml を開きます。
2. SilentInstallConfig.xml で、次のパラメータを更新します。

パラメータ	デフォルト値	説明
SerialNumber	該当なし	該当なし
製品コード	該当なし	該当なし
InstallDirectory	C:\Program Files\Kofax \TotalAgility Tenant Management	Kofax TotalAgility のインストール先ディレクトリを指定します。
MasterTenants	MasterTenants	MasterTenants データベース名を入力します。
WindowsAuthentication	true	ログインに Windows 認証情報を使用するには、[true] に設定します。
NewDatabase	false	[True] に設定すると、新しいデータベースが作成されます。

パラメータ	デフォルト値	説明
UserName	空 (false)	TotalAgility テナント管理を実行するユーザーの名前を入力します。  サービス アカウント名の末尾が \$(ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。
パスワード	空 (false)	ユーザーのパスワードを入力します。
RunAsSystemAccount	false	True に設定すると、IIS AppPool および Kofax TotalAgility サービスが LocalSystem アカウントとして実行されます。  Docker で実行している場合は、RunAsSystemAccount を true に設定する必要があります。
ValidOS	true	オペレーティング システムが有効かどうかを確認するには、[true] に設定します。
SQLServerInstalled	true	SQL Server がインストールされているかどうかを確認するには、[true] に設定します。
IISInstalled	true	IIS がインストールされているかどうかを確認するには、[true] に設定します。
UpdateDatabases	true	Docker にインストールする場合は false に設定します。
InstallAction	TenantManagementInstall	デフォルトを受け入れます。
InstallMode	サイレント	デフォルトを受け入れます。
InstallType	Both	インストール タイプを選択します。インストール タイプは、アプリケーション サーバー、Web サーバー、またはその両方に行うことができます。

パラメータ	デフォルト値	説明
<SiteRoot>	デフォルトの Web サイト	標準ポート (80 および 443) 以外の非標準ポートを使用するカスタムサイトの下に TotalAgility をインストールします。 たとえば、ポート番号 85 を使用して、IIS の下に「testsite」というカスタム サイトを作成します。

3. ファイルを保存して閉じます。
4. Setup.exe ファイルのルート ディレクトリに移動します。
5. Setup.exe/Silent を実行します。
テナント管理システムがインストールされます。
 - サイレント インストール ログの概要が、デスクトップ上の KofaxTotalAgilityTenantManagementSilentInstall.txt に作成されます。
 - エラーが発生した場合は、KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt がデスクトップに作成されます。エラーを修正してプロセスを完了します。

テナント管理システムの標準インストール

次のいずれかの方法で、標準インストーラ ウィザードを使用してテナント管理システムをインストールできます。

- [個別のインストール](#)
- [統合インストール](#) (オンプレミス マルチテナントのインストール中)

個別のインストール

1. TotalAgility インストール ファイルから \TenantManagementInstall フォルダに移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント コントロール) が有効になっている場合は、**Setup.exe** を右クリックして **[管理者として実行]** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

Kofax TotalAgility テナント管理のインストールが開始されます。
2. **[次へ]** をクリックします。
[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書] ウィンドウが開きます。
3. ライセンス契約の条項を承諾し、**[次へ]** をクリックします。
[インストール タイプ] ウィンドウが開きます。
利用可能なオプションは次のとおりです。 **[データベースのみ]**、**[データベースのアップグレード]**、**[Web サーバー]**、**[アプリケーション サーバー]**、および **[Web/アプリケーション サーバー]**。
4. インストール タイプ (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー) を選択し、**[次へ]** をクリックします。

[ソフトウェア チェック] ウィンドウが開きます。インストールに必要な必須ソフトウェアのリストが検出されて表示されます。

5. [検出されたソフトウェア] リストを確認し、次の手順を実行します。

- システムに必要なソフトウェアがすべて揃っていない場合は、[キャンセル] をクリックしてインストーラーを終了します。不足しているソフトウェアをインストールし、インストールの手順を繰り返します。
- システムに必要なソフトウェアがすべて揃っている場合は、[次へ] をクリックします。

[インストール先] ウィンドウが開きます。

6. デフォルトのインストール フォルダを使用するか、[ブラウズ] をクリックして別のパスを選択します。[次へ] をクリックします。

[電子メール構成] ウィンドウが開きます。

7. SMTP 構成の詳細を入力します。

- a. smtp.office.com などの [ホスト名]
- b. 587などの [ポート番号]
- c. kofax@kofaxindiapvtlimited.com などの [ユーザー名]
- d. パスワード
- e. 差出人アドレス: 電子メールの送信元の電子メール アドレス。kofax @ kofaxindiapvtlimited.com など
- f. Bcc: 電子メールのコピーを受信する必要があるユーザーの電子メール アドレス。
- g. HTTPS 通信を使用するには、SSL の有効化] を選択します。
- h. 電子メール アドレスでの国際文字の使用をサポートするには、[国際文字のサポートを有効にする] を選択します。

テナントが作成されると、構成された SMTP サーバーから電子メールが送信されます。

8. [次へ] をクリックします。

[認証情報] ウィンドウが開きます。

9. TotalAgility テナント管理システムを実行するユーザーの認証情報を入力します。

システム アカウントで TotalAgility テナント管理システムを実行する場合、データベースを操作するには信頼できるアカウントが必要です。このアカウントには、実行権限 (db_datareader、db_datawriter、および実行の権限) が必要です。Windows 認証を使用している場合、テナント管理システムのデータベース アカウント、つまり Windows アカウント ユーザーには、前述の実行時権限が必要です。テナント データベースを作成する場合は、データベース作成者 サーバー ロールのみが必要です。テナント ログオン ユーザーは、テナント管理システムで作成されないため必要ありません。

 サービス アカウント名の末尾が \$ (ドル) である場合は、パスワードを指定しないでください。

10. [TotalAgility アプリケーションをホストするルート Web サイト] リストで、TotalAgility アプリケーションをホストする Web サイトを選択します。デフォルトでは、[デフォルトの Web サイト] が選択されています。

i IIS マネージャーで追加された Web サイトがこのリストに表示されます。IIS マネージャーで Web サイトを追加するには、[スタート] > [実行] > [IIS マネージャー] > [サイト] > [Web サイトの追加] をクリックします。

11. [次へ] をクリックします。
[データベース] ウィンドウが開きます。
12. 次のいずれかを行います。

オプション	説明
デフォルト設定を使用します。つまり、新しいデータベースがインストールされます。	<p>以下を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. [データベースのインストール] チェック ボックスがオンになっています。 b. [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスがオフになっています。
同じ名前のデータベースが既に存在し、既存のデータベースを上書きします。	<ul style="list-style-type: none"> a. [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオンにします。 [接続のテスト] オプションが使用可能になります。 b. [接続のテスト] をクリックします。 メッセージにデータベース接続の結果が表示されます。データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合、データベースへの接続は失敗します。 c. [次へ] をクリックします。 d. [はい] をクリックして、データベースの上書きを確認します。 <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i 既存のデータベースを上書きする選択を行うと、データベースは再初期化され、既存のデータは失われます。データベースの詳細が有効でない場合、またはデータベースが存在しない場合は、エラーが発生します。</p> </div>
ローカル マシン上の既存のデータベースを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> a. [データベースのインストール] および [存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。 b. MasterTenants データベースの名前を入力します。
別のマシン上の既存のデータベースを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> a. [データベースのインストール] および、[存在する場合にのみデータベースを上書きしますか?] チェック ボックスをオフにします。 b. MasterTenants データベースの場合は、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. [データベース名] を入力します。 2. [サーバー] の省略記号をクリックし、データベース サーバーのモードとして [SQL Server (SSL 不使用)] または [SQL Azure] を選択します。 3. 使用可能なサーバーのリストから、インストールする SQL サーバーのデータベース サーバーを選択します。 4. [セキュリティ] グループの [認証] リストで、データベース サーバー モードが [SQL Server (SSL 不使用)] の場合は [Windows 認証] または [SQL Server 認証] を使用し、データベースのサーバー モードが [SQL Azure] の場合は [SQL Server 認証] を使用します。SQL Server 認証用ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。 5. すべてのデータベースが同じサーバー上にある場合は、[これらの設定を他のすべてのデータベースに適用する] チェック ボックスをオンにします。
	<ul style="list-style-type: none"> 6. [OK] をクリックします。
データベースを手動でインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> a. setup.exe ウィザードをこの画面に戻します。



- アプリケーション プールがシステム アカウントで実行されている場合は、エラーが表示されません。
- データベースを操作するには、信頼できるアカウントが必要です。

13. [次へ] をクリックします。

[データベース接続結果] ウィンドウが開きます。

14. [次へ] をクリックします。

[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なファイル、データベース、およびその他の統合製品がインストールされます。

15. [終了] をクリックします。

これでインストールは完了です。

- インストール ログの概要が、デスクトップ上の KofaxTotalAgilityTenantManagementInstall.txt に作成されます。
- エラーが発生した場合は、KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt がデスクトップに作成されます。

統合インストール

オンプレミス マルチテナンシーのインストール中にテナント管理システムをインストールします。

1. TotalAgility インストール ファイルから \OnPremiseMultiTenancyInstall フォルダに移動し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - UAC (ユーザー アカウント制御) が有効になっている場合は、**Setup.exe** を右クリックして **[管理者として実行]** を選択します。
 - UAC が有効になっていない場合は、**Setup.exe** を実行します。

Kofax TotalAgility マルチテナンシーのインストールが開始されます。

2. [次へ] をクリックします。

[Kofax Inc. ソフトウェア ライセンス契約書] ウィンドウが開きます。

3. ライセンス契約の条項を承諾し、[次へ] をクリックします。

[インストール タイプ] ウィンドウが開きます。

利用可能なオプションは次のとおりです。[データベースのみ]、[データベースのアップグレード]、[Web サーバー]、[アプリケーション サーバー]、および [Web/アプリケーション サーバー]。

4. インストール タイプ (デフォルト: Web/アプリケーション サーバー) を選択して、[次へ] をクリックします。

[環境タイプ] ウィンドウが開きます。セットアップする環境のモードを選択します。使用可能なオプションは、[本番展開]と [追加展開] (非本番) です。

5. [本番展開] (デフォルト) で、[テナント管理システムのインストール] を選択します (デフォルト: クリア)。

- [本番展開] (デフォルト): 本番環境をインストールします。オンプレミス マルチテナンシーのインストール中にテナント管理システムをインストールするには、[テナント管理システムのインス

トール] を選択します (デフォルト: オフ)。 **[次へ]** をクリックし、ウィザードの指示に従ってテナント管理システム コンポーネントをインストールします。

- **[追加展開 (非本番)]**: 選択すると、追加展開がインストールされます。追加展開の名前を入力します。追加展開の名前は 10 文字以下にしてください。特殊文字を含めることはできません。

[インストール先] ウィンドウが開きます。

6. オンプレミス マルチテナンシーのインストール中にテナント管理システムをインストールするには、次の手順を実行します。

- a. **[テナント管理システムのインストール]** をオンにします (デフォルト: クリア)。

- b. **[次へ]** をクリックします。

[Kofax TotalAgility テナント管理のインストール] ウィンドウが開きます。

- c. **[次へ]** をクリックし、ウィザードの指示に従って手順を実行します。

7. **[終了]** をクリックします。

これでインストールは完了です。

- インストール ログの概要が、デスクトップ上の KofaxTotalAgilityTenantManagementInstall.txt に作成されます。
- エラーが発生した場合は、KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt がデスクトップに作成されます。

第3章

テナント管理システムの構成

この章では、インストール後のインストールパラメータの変更または更新、TotalAgility 構成ファイルの暗号化と復号化など、TotalAgility テナント管理システムを構成する手順について説明します。

TotalAgility テナント管理システムへのログイン

TotalAgility テナント管理システム アプリケーションをインストールすると、**[すべてのプログラム]** にテナント管理システムへのショートカットが表示されます。

1. **[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[Kofax TotalAgility テナント管理]** > **[TenantAdmin]** に移動します。

TotalAgility テナント管理アプリケーションが起動します。

2. **[ユーザー名]** と **[パスワード]** を入力します。

i デフォルトのユーザー名とパスワードは「Administrator (管理者)」です。セキュリティ上の理由から、ユーザー名とパスワードを変更する必要があります。『Kofax TotalAgility テナント管理システムのヘルプ』の「ユーザーの管理」を参照してください。

Web.config の暗号化と復号化

TotalAgility テナント管理システムの Web.config には、DB 接続設定と機密情報が含まれています。そのため、このファイルを暗号化することをお勧めします。

Microsoft ASP.NET IIS 登録ツール (aspnet_regiis) を使用して、Web.config ファイルの任意のセクションを暗号化または復号化します。Microsoft Web サイトの「暗号化および復号化の構成」セクションを参照してください。

1. 次の場所にある TotalAgility Web.config に移動します。

```
<Kofax のインストールの場所>\TotalAgility\TenantManagementInstall  
\Agility.Server.Web.TenantManagement
```

2. 少なくとも、機密データベース接続情報を含む **appSettings** セクションを暗号化します。

https 通信用の TotalAgility テナント管理システムの構成

Kofax TotalAgility Web レイヤーに対して SSL (Secure Sockets Layer) 通信を有効にします。

Kofax TotalAgility テナント管理アプリケーションで SSL を有効にするには、次の手順を実行します。

1. **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー**を開きます。
2. 機能表示で、**[Server Certificates]** (サーバー証明書) をダブルクリックします。
3. [アクション] で、**[自己署名証明書の作成]** をクリックします。
[自己署名証明書の作成] ウィンドウが表示されます。
4. 証明書に名前を入力し、**[OK]** をクリックします。
5. **[デフォルトの Web サイト]** を右クリックして、**[バインドの編集]** をクリックします。
6. **[追加]** をクリックします。
 - a. [タイプ] リストで、**[HTTPS]** を選択します。
 - b. [SSL 証明書] リストで、証明書を選択します。
 - c. **OK** をクリックします。

クロス サイト リクエスト フォージェリ (CSRF) 対策

次の CSRF 対策を使用して、クロス サイト リクエスト フォージェリ攻撃からサイトを保護します。

- [Anti-CSRF トークンの構成](#)
- CSRF 攻撃を防ぐため、Web.config の <hostCookies> タグで値が Strict または Lax の SameSite 属性を指定します。詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。
- [Cookie のホスト プレフィックスの有効化](#)

クロス サイト リクエスト フォージェリ (CSRF) 対策トークン

CSRF 攻撃は、Web サイトで認証されているユーザーを利用します。攻撃は通常、電子メールや Web サイト上のハイパーリンクの形を取り、認証されたままになっているユーザーがそれをクリックすると成立します。この URL はユーザーの Web サイトをポイントしており、ユーザーが知らない間に特権アクション (管理者アカウントの追加など) の実行を試みます。TotalAgility では、TargetHostName および TargetPortNo の設定が、Web.config ファイルに CSRF 対策トークンとして追加されます。TargetHostName は Web サーバーの完全修飾ドメイン名で、TargetPortNo は Web サイトのポート番号です。これらの設定を指定すると、要求 URL に対して CSRF 対策の要求元および参照元の検証が行われます。検証が失敗した場合、要求は潜在的に危険な要求であると見なされて強制終了されます。

CSRF 対策トークンは、Web.config で手動で構成するか、構成ユーティリティを使用して構成できます。

手動で行う

1. TotalAgility サーバーのインストール ディレクトリに移動します。

2. テキスト エディタで、次のディレクトリにある Web.config を開きます。

```
\\TenantManagementInstall\Agility.Server.Web.TenantManagement
```

3. 次のセクションを見つけて、ターゲット ホスト名とターゲット ポート番号を指定します。

```
<appSettings>  
  <add key= "TargetHostName" value="<hostnamegoeshere"/>  
  <add key= "TargetPortNo" value="443"  
</appSettings>
```

4. 構成ファイルを保存して閉じます。

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、TargetHostName および TargetPortNo 設定を指定します。『Kofax TotalAgility 構成ユーティリティ ガイド』を参照してください。

Cookie のホスト プレフィックスの有効化

「Cookie にホスト プレフィックス」を使用します。これは、TotalAgility Cookie 名の前に「_HOST-」を付けることで、Cookie をより安全にするブラウザ機能です。Cookie 名がこのフラグで始まる場合、サポート ブラウザの Cookie に対して追加のブラウザ ポリシーがトリガーされます。Host というプレフィックスがついた Cookie は、これが設定されている同じドメインからのみアクセスできます。つまり、サブドメインでは Cookie 値を上書きできなくなります。また、HTTPS サイトからのみ Cookie にアクセスできるようになります。これにより、攻撃者が安全ではない偽装サイトを使用してセキュアな Cookie を上書きした場合でも、Cookie が保護されます。

設定を手動で編集するか、設定ユーティリティを使用して、Cookie のセキュリティを有効化または無効化します。

Web サーバーまたは Web/アプリー一体型サーバーで、次の手順を実行します。

1. Kofax TotalAgility インストール ファイルから、\\TenantManagementInstall\Agility.Server.Web.TenantManagement に移動します。
2. テキスト エディタで Web.config を開きます。
3. <appSettings> セクションを見つけ、「UseHostPrefixForCookies" value="true」値を確認します。

```
<appSettings>  
  <add key="UseHostPrefixForCookies" value="true"/>  
</appSettings>
```

構成ユーティリティを使用する

構成ユーティリティを実行し、必要に応じて [Web] タブで「Cookie のホスト プレフィックス」設定を変更します。

第 4 章

TotalAgility テナント管理システムの起動

1. ブラウザに次の URL を入力します。

`http://[TA サーバーのホスト名または IP アドレス]/TenantManagementWebSite/
TenantManagement/TenantLogon.html`

または、**[スタート] > [すべてのプログラム] > [Kofax TotalAgility テナント管理] > [TenantAdmin]** の順にクリックします。

[Kofax テナント管理システム] ログオン ページが表示されます。

2. インストール時に入力したログイン認証情報を入力します。
TotalAgility テナント管理システムがブラウザで起動します。

 セキュリティのためにパスワードをただちに変更します。

ライセンスのアクティブ化

ライセンスがアクティブ化されると、ライセンス期間が開始されます。TotalAgility テナント管理にログオンしたとき、ライセンスがアクティブ化されていない場合は、[ライセンス アクティベーション] ウィンドウが開きます。

1. [ライセンス アクティベーション] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。
 - **[次へ]** をクリックして、**[ライセンス サーバー]** と **[ポート番号]** のデフォルト値を受け入れます。
 - 新しい値を入力します。
2. **[ライセンス サーバーの設定]** をクリックして、情報を保存します。

 ライセンスの有効化で問題が生じた場合は、<http://www.Kofax.com/support/tools/> の Kofax サポートにお問い合わせください。

第5章

TotalAgility テナント管理システムのアンインストール

TotalAgility テナント管理をアンインストールすると、アプリケーションのみが削除され、データベースは削除されません。

サイレント モードを使用する場合

1. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを **Setup.exe** ファイルのルート ディレクトリに変更します。
2. コマンド `Setup.exe/Silent/U` を実行します。
TotalAgility テナント管理システムがアンインストールされます。
 - インストール ログの概要が、デスクトップ上の `KofaxTotalAgilityTenantManagementSilentUnInstallLog.txt` に作成されます。
 - エラーが発生した場合は、`KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt` がデスクトップに作成されます。エラーを修正してプロセスを完了します。

インストール ウィザードを使用する場合

1. [スタート] > [すべてのプログラム] > [Kofax TotalAgility テナント管理] の順にクリックし、右クリックして [Kofax TotalAgility テナント管理のアンインストール] を選択します。
[アンインストール] ウィンドウが開きます。
2. [次へ] をクリックします。
[アンインストールの進行状況] ウィンドウが開きます。
アンインストールが完了すると、[Kofax TotalAgility テナント管理のアンインストールの完了] というウィンドウが開きます。
概要レポートに、アンインストールされたコンポーネント、サーバー、アプリケーション、およびサービスのリストが示されます。
3. [終了] をクリックします。
エラーが発生した場合は、`KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt` がデスクトップに作成されます。エラーを修正してプロセスを完了します。

第6章

テナント管理システムのアップグレード

このトピックでは、テナント管理システム インストーラを使用して、テナント管理システム サーバーを最新バージョンにアップグレードする手順について説明します。

TotalAgility テナント管理システムは、7.8.0、7.9.0、7.10.0、または 7.11.0 から 8.0.0 にアップグレードできます。

1. TotalAgility インストール ファイルから、\\TenantManagementInstall フォルダに移動し、**Setup.exe** をダブルクリックします。
[ユーザー アカウント制御] ウィンドウが開きます。
2. **[Kofax TotalAgility テナント管理のアップグレード]** ウィンドウで、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **[TotalAgility コンポーネント]**: コンポーネントのみをアップグレードし、データベースはアップグレードしません。
 - **[TotalAgility データベース]**: データベースのみをアップグレードします。
 - **[データベースを含む TotalAgility コンポーネント]**: コンポーネントとデータベースの両方をアップグレードします。
3. Windows 認証を使用して SQL Server に接続するには、**[データベースの Windows 認証]** チェックボックスをオンにします。(デフォルト: オフ)
4. **[次へ]** をクリックします。
[認証情報] ウィンドウが開きます。
5. 認証情報 (パスワードと確認用パスワード) を入力し、**[次へ]** をクリックします。
[インストールの進行状況] ウィンドウが開きます。セットアップにより、必要なコンポーネントとデータベースがアップグレードされます。
6. **[終了]** をクリックします。
これでアップグレード プロセスは完了しました。
エラーが発生した場合は、KofaxTotalAgilityInstallErrorLog.txt がデスクトップに作成されます。エラーを修正してプロセスを完了します。

スクリプトを使用したデータベースの手動アップグレード

スクリプトを使用して、TotalAgility データベースを手動でアップグレードできます。

スクリプトを手動で実行するには、次の操作を実行します。

1. \\TenantManagementInstall\Agility.Server.Web.TenantManagement
TenantScripts\Upgrade Database Scripts に移動します。
2. データセンター データベースおよびマスター データベースの場合は、アップグレード元のバージョンからアップグレード先のバージョンまでのすべてのリリースおよびフィックス パックに対して、変換スクリプトとポスト アップグレード変換スクリプト (存在する場合) を実行します。
たとえば、TotalAgility データベースのバージョンを 7.8.0 から 7.11.0 にアップグレードする場合は、以下の各フォルダにある次の変換スクリプトをすべて実行します。

スクリプト:

- Convert_MasterTenants.sql
- Convert_DataCenterTenants.sql
- PostUpgrade_MasterTenants.sql
- PostUpgrade_DataCenterTenants.sql

フォルダ:

- 7.8.0.0 から 7.9.0.0 への変換スクリプト
 - 7.9.0.0 から 7.10.0.0 への変換スクリプト
 - 7.10.0.0 から 7.11.0.0 への変換スクリプト
 - 7.11.0.0 から 8.0.0.0 への変換スクリプト
3. TotalAgility 7.11.0 より前のバージョンからアップグレードする場合は、次の手順を実行してマスター テーブルとデータセンター テーブルをアップグレードします。
 - a. \\TotalAgility\Agility.Server.Web\bin> に移動して、**Agility.Installation.Server.Upgrade.exe.config** を開きます。<appSettings> セクションで、次の設定の値を更新します。
 - <add key="UserName" value="" />。ユーザー名は現在ログオンしているユーザーの名前です。
 - <add key="TenantDBConnectionString" value="Server=(local);Trusted_Connection=Yes;Database=DataCenterTenants;" />
 - <add key="MasterTenantDBConnectionString" value="Server=(local);Trusted_Connection=Yes;Database=<MasterTenants database>;" />
データベースがインストールされている場所を指すように接続文字列を指定します。
 - b. コマンド プロンプトからパラメータとして [UpgradeMasterTenants] や [UpgradeDataCenter] を渡して、Agility.Installation.Server.Upgrade.exe を実行します。つまり、Agility.Installation.Server.Upgrade.exe [UpgradeMasterTenants] および Agility.Installation.Server.Upgrade.exe [UpgradeDataCenter] のようになります。

i ログを生成するには、Agility.Installation.Server.Upgrade.exe.config のシステム診断セクションを更新して、<add name="KTALog" type="System.Diagnostics.TextWriterTraceListener" InitializeData="[ログ ファイルのパス][ログ ファイル名]" でログ ファイルのパスを定義します。

第7章

トラブルシューティング

このセクションでは、発生する可能性のある問題とその解決策について説明します。

ソフトウェア更新プログラムのダウンロード

ftp.kofax.com サイトからインストール パッケージまたはサービス パックをダウンロードする場合、このサイトが信頼出来るサイトとして追加されていることを確認してください。追加されていない場合、ダウンロードされたファイルが破損する可能性があります。

IPv4 および IPv6 環境でのインストールの失敗

デュアルスタック (IPv4/IPv6) の IPv6 アドレスのみでリスンするように SQL Server が構成されている場合、IPv4 アドレスを使用してクライアント接続を試行すると、失敗し、接続確立ハンドシェイク中に使用されるデフォルトの TCP タイムアウト ロジックの影響を受けて、所要時間がデフォルトのタイムアウトよりも長くなることがあります。以降の IPv6 接続は、すぐに成功した場合でも、引き続き失敗する可能性があります。

この問題を解決するには、SQL Server Configuration Manager で IPv4 を無効にします。

1. **SQL Server Configuration Manager** を起動します。
2. TotalAgility サーバー インスタンスの TCP/IP プロトコルの **[プロパティ]** を開きます。
3. **すべてリスン** を **いいえ** に設定します。

 この設定により、TAServerSQLInstance が接続をリスンするインターフェイスを細かく制御できます。

4. **IP アドレス** タブをクリックします。
5. IPv6 ローカル ホスト アドレスである `::1` を除くすべてのエントリーについて、**有効** を **いいえ** に設定します。
6. **OK** を選択して変更をコミットし、サービスの再起動ダイアログで **OK** を選択します。
7. SQL Server (<TAServerInstance>) サービスを再起動します。ここで、TAServerInstance は、TotalAgility によって使用される実際のインスタンス (Kofax TotalAgility など) です。